

令和 2 年度
北村山広域行政事務組合教育委員会
事務事業点検・評価報告書
(令和元年度事業分)

北村山広域行政事務組合教育委員会

目 次

1	北村山広域行政事務組合教育委員会事務事業の点検・評価について	2
	(1) 制度の概要及び目的	
	(2) 点検・評価の対象事業	
	(3) 点検・評価の方法	
2	教育委員会の活動状況	2
	(1) 教育委員会の開催	
	(2) 北村山教育会基金の運用状況	
	(3) 北村山教育賞等の表彰	
	(4) 北村山教育会基金助成金の交付	
3	運営委員会の開催状況並びに委員の意見等（学識経験者の知見の活用）	4
	(1) 運営委員会の開催	
	(2) 運営委員の意見	
4	北村山視聴覚教育センター 運営方針・重点施策 及び主な事務事業	6
5	点検・評価対象事業一覧	9
	令和元年度北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書	11

1 北村山広域行政事務組合教育委員会事務事業の点検・評価について

(1) 制度の概要及び目的

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成20年4月1日施行）により、教育委員会は権限に関する事務の管理及び執行状況について自ら点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表しなければなりません。

北村山広域行政事務組合教育委員会ではこの法律の主旨に則し、効果的な教育行政の推進に資するため、年度毎に事務事業を点検・評価し報告書を作成します。

(2) 点検・評価の対象事業

本報告書の点検・評価の対象事業は、令和元年度に実施した北村山視聴覚教育センター運営方針・重点施策に基づいた主要な事業を対象としています。

(3) 点検・評価の方法

点検・評価の対象とした事業は、それぞれの事業ごとに「事務事業点検・評価書」を作成し「必要性」「効率性」「有効性」等の観点から総合評価したうえで、今後の方向性として、「継続・拡大」、「見直・改善」、及び「縮小・廃止」に区分して明確化しました。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の開催

令和元年度は、2回の教育委員会会議を開催しました。

ア 令和元年10月29日 第3回教育委員会会議

議第3号 北村山教育賞の表彰候補者について

イ 令和2年2月10日 第1回教育委員会会議

議第1号 令和2年度北村山広域行政事務組合教育に関する予算要求について

(2) 北村山教育会基金の運用状況

基金の年度末現在高は、2,097万4,476円です。

(単位：円)

区 分	前年度末 現在高	決算年度中増減高		決算年度末 現在高	
		増	減		
北村山教育会基金	現金	22,306,078	5,592	1,337,194	20,974,476

(3) 北村山教育賞等の表彰

令和元年度は、6名に北村山教育賞を表彰しました。

落合 優真（尾花沢市）

石川 恵麻（東根市）

工藤 椰己（東根市）

海藤 優（大石田町）

後藤 優歩（東根市）

坂本 萌花（東根市）

(4) 北村山教育会基金助成金の交付

令和元年度は、4団体に北村山教育会基金助成金を交付しました。

北村山地区指導主事連絡協議会

北村山地区小・中校長会協議会

北村山地区小・中・高生徒指導連絡協議会

北村山図書館協議会

3 運営委員会の開催状況並びに委員の意見等（学識経験者の知見の活用）

(1) 運営委員会の開催

令和元年度は、2回の運営委員会を開催しました。

ア 令和元年6月18日 第1回運営委員会

平成30年度センター事業報告および令和元年度センター事業について

イ 令和2年2月20日 第2回運営委員会

(ア) 令和元年度センター運営状況、事業について（経過報告）

(イ) 令和2年度センター運営方針・重点事業（案）について

(2) 委員の意見

（柏倉泰樹委員 大石田町教育委員会推薦学識経験者 大石田町立図書館長）

○今までのふるさと教材のDVDが図書館にも置いてある。利用者は分かるが、広く一般に伝わっていないのでは。三市一町の図書館にもDVDがあり、いつでも見られる状態にあることを広報してほしい。素晴らしい貴重な資料なので、引き続き図書館にもいただけるとありがたい。

○要覧に「図書館との連携」という文言がない。図書館はかなり充実しており、蔵書数も増えている。広く活用してもらうためにセンターの資料も図書館で紹介し、図書館の資料もセンターの中で活用してもらう、こうした形で利用拡大を進めていければ良いのではないだろうか。

（高橋哲也副運営委員長 北村山地区中学校長会長）

○GIGAスクール構想で、各校に端末が入ってくるが、指導者の研修を各市町教委と連携して強化してほしい。各市町で入る機種も異なるだろう。連携を図って操作方法や活用について研修をお願いしたい。

○センターのホームページを拝見した。大変使いやすい。教材の検索や搬送システムもある。大変便利になっている。教材の検索の中で、中学校の部活動の競技の指導法について知りたい時に、保健体育の分類に入っているので検索がしにくい。部活動あるいはスポーツという分類を起こしていただきたい。

（佐藤淳一委員 村山市教育委員会推薦学識経験者）

○昨年度プラネタリウムを私たちの団体（山形県教育共励会北村山支部）の研修に取り入れた。こうした研修の組み方を知らない方もいると思う。大人の研修でもプラネタリウムの活用が可能だということを何らかの形で宣伝してはどうか。

○事例集の内容について理解できない。指導案をみても授業のイメージがわからない。可能ならば研究会の案内を送って欲しい。授業を参観させて欲しい。

(原田健男委員 村山教育事務所社会教育課長)

○視聴覚教材コンクールへの出品について、県内でもトップクラスの作品を出品いただいている。

○社会教育は、学校に通う子どもたち、学校の先生、地域の方々全ての学習機会を考えないといけない。センターでは映像技術を地域に発信する活動がしっかりできているので、継続していただきたい。

○平成 27 年戸沢地区の公民館が文部科学賞を受賞している。公民館の活動を PR する映像資料を添えなければならなかったが、その時にセンターが協力したという話があった。大変感謝していた。今後ともよろしくお願ひしたい。

(板垣仁樹委員 マスコミ関係者 山形新聞村山支社長)

○予定やイベントの内容などをプレスリリースとしてどんどん流していただいて、弊社だけでなく他の新聞社、テレビなどに宣伝していただくと、センターの素晴らしさが広がっていくのではないかと思う。

○プラネタリウムの素晴らしさを広めていただくと利用者が増えると思われる。

(鈴木玲子委員 女性の社会教育関係者 村山ファミリー劇場代表)

○福祉施設としてプラネタリウムを利用したが、車いす利用者や高齢者の利用が難しいと感じる。館内の改修を検討してみてはどうか。

(安達良信委員 こども会育成会 PTA 関係者 大石田町 PTA 連合会長)

○自作視聴覚教材について、ふるさとの教材化は大変価値がある。これからも大切にしてほしい。

○以前要望した「生の音楽とプラネタリウムのコラボレーション」の機会を増やしていただいた。今後も継続して開催することを期待する。

(鈴木敦夫委員 北村山小中学校教育研究会メディア教育部会長)

○学校での情報モラル学習や、移動教室でのプログラミング教室など、時代に即応した研修会を実施しているので、これからも管内の学校のニーズに合わせて様々な研修会を企画していただきたい。

※運営委員は、北村山広域行政事務組合立視聴覚教育センター条例施行規則第 6 条に則り、北村山広域市町村圏内社会教育団体関係者、北村山広域市町村圏内小中学校教職員、教育関係機関の職員及び学識経験者より委嘱又は任命しています。

4 北村山視聴覚教育センター 運営方針・重点施策 及び主な事務事業

令和元年度 運営方針

北村山広域市町村圏における新しい未来を創る子供たちの育成を目指し、生涯学習時代と情報化社会の進展に即応した視聴覚・情報教育の日常化を促進援助し、教育方法と内容の改善充実に努め、地域とともに学び、より開かれた運営を目指す。

(1) 研究と研修活動

学校教育・社会教育に関する教育メディア関係の研修を計画的に行うとともに、相談、指導助言、並びに調査研究を行う。

(2) 学習情報の提供

学校教育・社会教育に必要な教育メディアを収集し、広くその利用に供するとともに、地域性を生かした教材の開発及び制作を行う。

(3) 施設利用の学習

学校教育・社会教育のセンター利用学習については、それぞれの教育目標との関連において効果的に行われるように努める。

学校教育・社会教育等関係者に計画的かつ自主的な研修・研究の場を提供する。

(4) 連絡提携と広報活動

視聴覚教育に関する普及・啓発のために、学校教育・社会教育関係、地域団体等と連絡提携を密にし、広報活動を積極的に行う。

令和元年度 重点事業

(1) 研修・学習機能の充実

ア オーダーメイド型の施設単位講習会

情報モラル学習、ICT活用講座、プログラミング教育、星空教室などの講習会を開催する。特にプログラミング教育の実施に向けた講座開催を各小学校に呼びかけ推進を図る。

イ メディア講座

(ア) 幼児施設の職員を対象とした基礎基本メディア講座（年10回）の開催

(イ) 小中学校教職員を対象としたICTを活用した授業づくり講座（年4回）の開催

(ウ) 授業づくり講座は、北村山小中学校メディア教育部会・教育委員会と連携して整備された機器環境に合わせた内容で開催し、講座の充実を図る。

ウ ICT活用・プログラミング教育実践事例集の作成

(ア) 環境整備の進展に応じたICT活用（タブレット等）の実践事例や小学校におけるプログラミング教育の実践事例を集め、実践事例集として作成する。

(イ) ICT活用事例やプログラミング教育実践事例を、ホームページやメディア情報CD-ROMに掲載して、効果的な活用を広く発信し、充実化・推進化を図る。

エ 移動学習の充実化

(ア) LED化されたプラネタリウムの特性を活用し、天文学習を充実させる。

(イ) プログラミング教育のビジュアル型プログラミング言語の操作学習を取り入れる。

(2) 一般公開事業の充実

ア センターまつり

(ア) 夏と冬にセンターまつりを2回実施し、地域住民にセンター機能を開放する。

イ 天体観望会

(ア) 4月春の星座観察会、6月木星の観望、8月ペルセウス座流星群の観望

(イ) 地域行事やイベントと連携した天体観望会の開催

ウ 土曜日一般公開

(ア) LED化されたプラネタリウムの特性を活用し内容をより充実させる。

エ その他

(ア) 視聴覚教材視聴コーナーを設置し、事前に教材内容を確認できるようにする。

(イ) 宇宙航空研究開発機構（JAXA）が推進するコズミックカレッジを継続開催し、子供たちの天文・宇宙に関する興味関心を育む。

(3) 地域素材、機器材・教材の充実

ア 自作視聴覚教材の制作

(ア) 地域素材を扱った自作視聴覚教材を制作し、子供たちの学習等に役立てる。

イ 機器材・教材の充実

(ア) 学校教育や社会教育で有効活用できるDVD教材、コンピュータソフト等の視聴覚・情報教育教材を、学校教育専門部員や社会教育専門部員と検討し購入する。

(イ) プログラミング教育推進のためにタブレットPCを整備し、移動学習等で活用する。

(ウ) 貸出用プロジェクター等を購入し、利用者が安心して使えるように機器材の更新・整備を図る。

5 点検・評価対象事業一覧

各重点施策のうち、○印を付した事業（以下に記載）について、点検評価を実施した。

重点事業1 研究と研修活動の充実

- | |
|-----------------------------|
| (1) オーダーメイド型の施設単位講習会 |
| (2) メディア講座 |
| (3) ICT活用・プログラミング教育実践事例集の作成 |
| (4) 移動学習の充実化 |

○小中学校情報教育研修会	11
○視聴覚教育講演会	12
○委嘱研究事業	13
○移動学習	14
○ビデオ・アナウンス教室	15
○施設単位講習会	16
○16mm映写機操作講習会	17
○ビデオ講習会	18
○親子タブレット写真教室	19
○自作視聴覚教材コンクール事業	20
○職員の研修	21

重点事業2 一般公開事業の充実

- | |
|-------------|
| (1) センターまつり |
| (2) 天体観望会 |
| (3) 土曜一般公開 |
| (4) その他 |

○天文関係事業（天文講演会・プラネタリウムイベント）	22
○センターまつり及び土曜一般公開事業	23
○センター利用を促進するための広報活動	24

重点事業3 地域素材、機器材・教材の充実

- | |
|----------------|
| (1) 自作視聴覚教材の制作 |
| (2) 機器材・教材の充実 |

○映像教材の制作・アーカイブ化事業	25
○機器材・教材購入及び貸出	26

*** 各事業の評価基準**

評価項目	評価の視点	評価結果	点数
必要性	広域行政として行うべきか。 地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	3
		一応必要性ある	2
		必要性低い	1
効率性	投入された資源量に見合った効果が得られるか。	効率的である	3
		一応効率的ある	2
		効率的でない	1
有効性	目的に対して事業が有効か。 事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3
		一応効果がある	2
		効果がない	1
総合評価	上記（必要性+効率性+有効性）の合計点数により評価。	継続・拡大（9～8点）	A
		見直・改善（7～5点）	B
		縮小・廃止（4～3点）	C

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	小中学校情報教育研修会	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	--------------	-----	-------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度		
	対象	管内幼児施設職員、小・中学校の教職員	内容	小中学校情報教育担当者会(5月初旬) ・センターの運営や、事業、利用についての説明 ・情報教育や情報管理に関する研修(著作権など) 実施日:5/8 参加人数:管内小中学校教職員 35人	事業費	0千円				
	目的	視聴覚担当教職員及び、センターの利用経験が少ない教職員を対象とし、情報教育に関する研修とセンターの機能に関する説明会を実施し、利用促進を促す。				歳入(補助金等)	国	県	その他	
							0千円	0千円	0千円	
					歳入(一般財源)	0千円				

	評価項目	評価結果 点数	理由・問題点など		
2 事務事業評価 (令和元年度事業)	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い ③	小学校新学習指導要領においてプログラミング教育を行うことが明示され、ICT教育に関わる研修等の要望が急増した。管内の視聴覚教育の中心となる当センターに期待されているところが大きいと捉え、今後も充実させていく必要がある。	前年度からの改善点	新学習指導要領が完全実施になることに向けて、小学校プログラミング教育の研修内容をより実践的な内容へと変更した。
		一応必要性ある 2			
		必要性低い 1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である ③	当センターが中心となり、情報教育に関わる研究・研修の場を提供することで、管内のICT教育の全体的な底上げを効果的に行うことができている。また、研修後も、校内研修の実施に繋がっている学校も多く、効果は高い。	次年度への課題	この研修会をきっかけとして、各校での校内研修の要請が多くなってきている。同様の研修会は、各市町教育委員会でも行われているので、研修等を整理しよりニーズに合った研修等にしていける必要がある。
		どちらかといえば効率的 2			
		効率的でない 1			
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある 3	小学校プログラミング教育に関して一定程度の有効性は認められたものの、時代の変革期において今後必要とされる研修などについて、研修内容の見直しが求められる。	今後の取組方針	コロナ禍におけるICT活用のヒントとなるような研修内容にしていく。また、指導主事連絡協議会と連携し、ICT活用に関わる各市町の取り組みと連携しながら、研修を計画していく。
		一応効果がある ②			
		効果がない 1			
	総合評価		継続・拡大(9~8点) ④	プログラミング学習に関わる機器を整備し、より実践的な研修を実施することができた。今後、時代の変化に即した研修となるよう、研修内容の見直しも適宜行っていく必要がある。	
		見直・改善(7~5点) B			
		縮小・廃止(4~3点) C			
		上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。			

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	視聴覚教育講演会	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	--------------	-----	----------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度		
	対象	管内幼児施設職員、小・中・高の教職員、及び児童生徒	内容	視聴覚教育講演会(講演会+実技講習会) 令和元年度 実施日:8/6 講師:ダブルインフィニティコーディネート 齋藤博美 参加人数:管内小中学校教職員39名	事業費	20千円				
	目的	視聴覚・情報教育に関して、中央講師による講演会を実施し、管内のICT活用の推進に寄与する。				歳入(補助金等)	国	県	その他	
							0千円	0千円	0千円	
					歳入(一般財源)	50千円				

	評価項目	評価結果 点数	理由・問題点など		
2 事務事業評価 (令和元年度事業)	必要性 <small>広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。</small>	必要性高い ③	小学校新学習指導要領においてプログラミング教育を行うことが明示され、ICT教育に関わる研修等の要望が急増した。管内の視聴覚教育の中心となる当センターに期待されているところが大きいと捉え、今後も充実させていく必要がある。	前年度からの改善点	新学習指導要領が完全実施になることに向けて、より実践的な研修となるよう、教科書掲載の機器を使用した研修にした。
		一応必要性ある 2			
		必要性低い 1			
	効率性 <small>投入された資源量に見合った効果が得られたか。</small>	効率的である ③	小学校プログラミング教育の実施に合わせ様々な機器等を準備し、管内のICT教育の全体的な底上げを効果的に行うことができた。	次年度への課題	小学校プログラミング教育にかかる機器の整備に時間がかかっている。また、GIGAスクール構想の実現に伴い、学習者用端末一人一台をどのように活用していくかが大きな課題となっている。
		どちらかといえば効率的 2			
		効率的でない 1			
	有効性 <small>目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。</small>	効果がある 3	一定程度の研修の有効性は認められたものの、GIGAスクール構想によって学習者用端末が配備されることを受けた研修内容の見直しが求められる。	今後の取組方針	小学校プログラミング教育にかかる機器については、センターとして早期に整備し、移動学習や研修等で活用していく。全国的なICT推進校の講師に依頼し、一人一台端末の活用の実際について学んでもらえるような講師選定を行う。
		一応効果がある ②			
		効果がない 1			
	総合評価 <small>上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。</small>		継続・拡大(9~8点) ①	プログラミング学習に関わる機器を整備し、管内教職員並びに児童生徒のICT活用の研修を行い、ICTを活用した情報活用能力の育成を図ることができた。今後、時代の変化に即した研修となるよう、研修内容の見直しも適宜行っていく必要がある。	
		見直・改善(7~5点) ②			
		縮小・廃止(4~3点) ③			

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	委嘱研究事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2. 8. 31
------	--------------	-----	--------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	管内幼児施設職員、小・中・高の教職員	内容	教材研究、指導助言(随時) 公開授業研究会(研究員一人につき年間1回) 令和元年度委嘱研究員 村山市立葉山中学校 教諭 矢作創己(公開日9/26) 委嘱1年目 東根市立高崎小学校 教諭 門脇里沙(公開日10/15) 委嘱1年目 大石田町立大石田北小学校 齋藤友貴(公開日11/20) 委嘱2年目 ※ 尾花沢市の委嘱研究員が管外へ異動	事業費	89千円			
	目的	研究員(各市町1名ずつ)を委嘱し、ICT機器を活用した効果的な学習指導法の開発や、プログラミング教育の実践研究を推進する。				歳入(補助金等)	国	県	その他
		0千円	0千円	0千円					
					歳入(一般財源)	98千円			

2 事務事業評価 (令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	新学習指導要領が完全実施になることに向けて、委嘱研究員の研究対象を小学校プログラミング教育にしていく。	
	必要性	必要性高い	③	小学校新学習指導要領においてプログラミング教育を行うことが明示され、ICT教育に関わる事例の提供が急務となっている。委嘱研究員を中心にICT活用に関する先進的な事例を、管内の学校に提供していく必要がある。	次年度への課題	研究内容が公開授業研究会が中心となり、普段の授業でのICT活用が弱くなってしまった。また、研究員同士の授業参観はあるが、外部への研修の機会が少ない。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性	効率的である	③	各市町にとって委嘱研究員の事例提供は大変貴重であり、研究員の所属する学校はもとより同市町内でICT活用に関わる情報交換が行われるきっかけとなるなど効果的な事業である。	今後の取組方針	委嘱研究員との連携を密にし、普段の授業からICTを授業改善に活用できるようにしていく。外部研修会等への参加を奨励していく。
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
	有効性	効果がある	③	委嘱研究員を中心に各市町での研究が進んでいる。特に、プログラミング教育に関わる授業実践を見たことがない教職員にとっては、授業研究会の場はとて有効であった。		
		一応効果がある	2			
		効果がない	1			
総合評価	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	研究員を委嘱した授業研究は、今後も継続していく。研究員には外部研修会へも参加可能な形に、内容を拡大していく。			
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	見直・改善(7~5点)	B				
	縮小・廃止(4~3点)	C				

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	移動学習	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2. 8. 31
------	--------------	-----	------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	管内幼児施設職員、小・中・高の児童生徒	内容	移動学習(センターバスによる送迎) ・天文学習 ・映画教室 ・情報モラル教室 ・プログラミング教室 令和元年度実績 合計184回 人数3,583人	事業費	1,433千円			
	目的	管内幼児施設、小中学校、社会教育関係団体を対象として、天文学習や映画教室、情報モラル教室、プログラミング教室を行い、児童の学習をサポートする。			歳入(補助金等)	国	県	その他	
						0千円	0千円	0千円	
歳入(一般財源)	1,839千円								

2 事務事業評価 (令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	昨年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針	
		点数					
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	プラネタリウムや視聴覚室を持つ管内唯一の施設として、今後も移動学習を実施していく必要がある。同時にICT教育に関しても、視聴覚教育センターとして移動学習の中で実施していく必要がある。			
		一応必要性ある	2				
		必要性低い	1				
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	児童生徒の天文に関する理解を促すには、プラネタリウムの活用が効果的である。また、情報モラル教室やプログラミング教室に関しても、専門性の高い職員が実施することでより効果が期待できる。			
		どちらかといえば効率的	2				
		効率的でない	1				
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	実際に児童生徒を対象として各教室を実施することで、参加した児童生徒はもとより、引率の教職員にとっても大きな学びとなり大変有効である。			
		一応効果がある	2				
		効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	①	プログラミング教室に関しては、管内40クラス、延べ1000人を超える児童生徒に実施した。令和2年度より小学校プログラミング教育が実施されることに合わせて、より幅広い学年へ実施できるように内容を工夫していく必要がある。				
	見直・改善(7~5点)	B					
	縮小・廃止(4~3点)	C					

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	ビデオ・アナウンス教室	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	--------------	-----	-------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度	終了年度	R1
	対象	管内幼児施設職員、小・中・高の教職員、及び児童生徒	内容	ビデオ・アナウンス教室 ビデオ教室 講師：センター職員 アナウンス教室 講師：フリーアウンサー 田中記子	事業費	64千円		
	目的	校内放送やビデオ撮影についての基本的な技術、知識を習得し、各校における活動の充実を図る。				小学校ビデオ・アナウンス教室 実施日：5/30 参加人数：ビデオ0人 アナウンス17人 中学校 ビデオ・アナウンス教室 実施日：6/12 参加人数：ビデオ6人 アナウンス18人	歳入 (補助金等)	国
		0千円	0千円	0千円				
				歳入 (一般財源)	64千円			

2 事務事業評価 (令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題 (廃止とする)	今後の取組方針
		点数				
必要性	広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	3	授業時間中に行われる児童生徒を対象とした研修会のため、参加できる学校が近隣校に限られており、広域として取り組む必要性は低い。	前年度からの改善点 これまでビデオ教室で使用していたアプリの操作が難しかったので、児童生徒にとって使いやすいiMovieに変更した。	
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	①			
効率性	投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	アナウンス教室については外部講師を依頼しているが、参加者は小学校17人、中学校18人と少なく、効果的とは言えない。	次年度への課題 (廃止とする)	
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	①			
有効性	目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3	一定程度の研修の有効性は認められたものの、学校放送の形態も変化してきており学校現場の要望に沿った研修内容への見直しが求められる。	今後の取組方針	学校のニーズを取り入れながら、新しい内容の研修会を模索していく。
		一応効果がある	②			
		効果がない	1			
総合評価	上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	A	参加校が近隣校に限られていること、また研修内容が学校現場の実態とはそぐわなくなってきていることから、次年度は廃止する。		
		見直・改善(7~5点)	B			
		縮小・廃止(4~3点)	◎			

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	施設単位講習会	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	--------------	-----	---------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	管内幼児施設職員、小・中・高の教職員、及び児童生徒	内容	主に教職員及び保護者を対象としたもの ・ICT活用に関する研修 ・小学校プログラミング教育に関する研修 ・情報モラルに関する研修 主に児童生徒を対象としたもの ・情報モラル学習 ・プログラミング学習 ・星空観望会	事業費	0千円			
	目的	センター職員が学校や施設に出向き、ICT活用に関する研修、プログラミング、情報モラル、星空観望等の研修会を行う。			歳入(補助金等)	国	県	その他	
			0千円	0千円	0千円		歳入(一般財源)	0千円	

2 事務事業評価 (令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	小学校プログラミング教育に関わる講習会の内容を、ICTを使ったより具体的な内容にした。	
	必要性	必要性高い	③	学校職員だけでは実施が難しい講習会を、センター職員の専門性を生かし実施することは必要である。	次年度への課題	GIGAスクール構想によって一人一台端末が整備されようとしている中において、現場の要望が変わってくることが予想される。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性	効率的である	③	各校の代表者のみを集めた講習会ではなく、センター職員が各校に直接出向き研修を行うことで、効率的に学校全体での共通理解をはかることができる。	今後の取組方針	小学校プログラミング教育や、GIGAスクール構想の実現に伴う現場の要望をつぶさに捉え、研修会の内容をより充実させていく。そのためにも、より専門性の高い外部講師等を検討していく。
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
	有効性	効果がある	③	施設単位で訪れた学校からの評価が高く、近隣の学校でも開催してほしいという要望に繋がっている。現場のニーズに沿った講習会が実施できていると考えられる。		
		一応効果がある	2			
		効果がない	1			
総合評価	継続・拡大(9~8点)	④	センター職員の専門性を生かした講習会は、学校現場の要望とも合致しており、次年度以降も継続していく。			
見直・改善(7~5点)	B					
縮小・廃止(4~3点)	C					
	上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。					

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	16mm映写機操作講習会	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	--------------	-----	--------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度			
	対象	管内幼児施設職員、小・中・高の教職員、社会教育関係団体、一般	内容	16ミリ映写機を扱うための講義および操作の実習を行う。修了者には16ミリ映画貸出許可証を交付する。 実施日：6月1日 参加人数：5名	事業費	0千円						
	目的	16ミリ映画を活用し、学校教育・生涯教育の振興を図る。16ミリ映写機の操作方法を学び、幼児施設・学校・公民館・子供会・各種団体活動等で利用できるようにする。				歳入（補助金等）	国	県	その他			
							0千円	0千円	0千円			
						歳入（一般財源）	0千円					

2 事務事業評価（令和元年度事業）	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	センターの社会教育専門部員にも参加を促した。	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	視聴覚ライブラリーの機能の1つとして16ミリ映画の貸出がある。教育映画としての歴史があり、文化財としての価値を大切にしながら、社会教育団体の利用を増やしていく必要がある。	次年度への課題	案内先の整理。主な対象者への広報の仕方。16ミリ映画を活用する事業での広報。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	新規取得者が講習を受け、許可書を取得する機会を設けることで、受講者に許可書をまとめて交付することができた。貸出許可書を有していない団体が貸出しを申請したときはその都度講習を行っていた。講習会の案内の仕方を工夫し、講習会での許可証の交付を増やすべきである。	今後の取組方針	受講者を増やすために、広報の仕方を工夫するとともに、16ミリ映画の良さや魅力を伝える必要がある。社会教育団体が16ミリ映画を事業に活用したいと思えるよう、16ミリ映画の価値が伝わるような事業の計画も検討していく。
		どちらかといえば効率的	②			
		効率的でない	1			
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3	受講者が5名だった。官公庁の職員の受講者が多く、各市町の事業での活用につながるという面では効果があったといえる。16ミリ映画を利用したことがない団体や、利用団体の中で許可証の保有者の次の世代の方々をターゲットにして案内を行い、受講者を増やす。			
	一応効果がある	②				
	効果がない	1				
総合評価	継続・拡大(9～8点)	A	視聴覚ライブラリー機能の1つとして重要な分野であり、16ミリ映画の良さを多くの方に提供していく役割を担う立場であると考えている。16ミリ映写機を活用した事業とも関連付けながら、講習会への参加者を増やしていきたい。			
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	見直・改善(7～5点)	②				
	縮小・廃止(4～3点)	C				

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	ビデオ講習会	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	--------------	-----	--------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	一般	内容	タブレットと「iMovie」というアプリを使った、ビデオ作品づくりのための、撮影方法と動画編集の講義を行う。 実施日：6月15日 参加人数：1名	事業費	0千円			
	目的	ビデオ撮影の基礎や編集方法、作品の保存方法について講義や演習を行い、地域住民の中で視聴覚教材制作に興味を持ったり作品制作を行ったりする個人や団体の増加を図る。				歳入(補助金等)	国	県	その他
					歳入(一般財源)		0千円		
							0千円	0千円	0千円

2 事務事業評価(令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針
		点数				
必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	3	撮影機材や編集機材が昔と比べて手ごろで手に入りやすくなってきているので、撮影や編集の方法を個人的に学びたいというニーズはそれなりにあると考えられる。	前年度からの改善点	パソコン上での映像編集から、タブレットを活用した映像編集講座に改善を行った。	
	一応必要性ある	②				
	必要性低い	1				
効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	興味を持っている方に一斉に指導できることや、講義だけでなく演習も行うことで、より深く研修することができた。案内は学校教育施設だけでなく公民館等の社会教育施設にも送付し、公民館を利用している個人にも案内したが、参加者数は1名だった。案内の仕方に工夫が必要である。	次年度への課題	研修内容の改善 研修の案内先の検討	
	どちらかといえば効率的	②				
	効率的でない	1				
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3	家庭にある機器を使って撮影・編集するための研修としては有効ではあるが、より専門性の高い内容にし、多くの方に興味を持たせるような事業にしていく必要がある。	今後の取組方針	県や全国のコンクールでの受賞を意識して作品制作をする個人または団体に興味を持ってもらうため、専門家を講師に招くことを検討する。	
	一応効果がある	②				
	効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	A	自作視聴覚教材制作はセンター事業の柱の1つであり、地域の個人や団体が積極的に制作活動できるよう事業実施や支援を行っていく必要がある。ビデオ講習会は自作視聴覚教材制作につながる大切な事業であり、より専門性の高い研修に改善して、県や全国のコンクールでの受賞を意識した作品作りができるようにする。	今後の取組方針	県や全国のコンクールでの受賞を意識して作品制作をする個人または団体に興味を持ってもらうため、専門家を講師に招くことを検討する。	
見直・改善(7~5点)	B					
縮小・廃止(4~3点)	C					

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	親子タブレット写真教室	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	--------------	-----	-------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度	終了年度	R1	
	対象	一般	内容	タブレットやスマートフォンを使って手軽に写真撮影をするための知識や技能を習得するための講義と演習を行う。 実施日：8月3日 参加人数：親子5組 13名	事業費	10千円			
	目的	地域の親子を対象に、タブレットやスマートフォンを使って手軽に写真撮影をするための知識や技能を習得してもらう。				歳入(補助金等)	国	県	その他
						歳入(一般財源)	10千円		

2 事務事業評価(令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	次年度への課題	今後の取組方針
		点数				
必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	3	タブレットやスマートフォンの普及率は高いが、機能を十分に理解していない方も多いように感じる。そうした方々には有益な講習会といえるが、そこまで詳しくなくても容易に操作できることから、講習会に対するニーズはそれほど高くない。	講義の内容に、より専門的な機能の紹介を加えた。		
	一応必要性ある	2				
	必要性低い	①				
効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	参加者が13名であり、チラシなどでの広報活動や講師を招聘したこと、当日の職員の従事を鑑みると効率的とは言えない。		(廃止とする)	
	どちらかといえば効率的	2				
	効率的でない	①				
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	3	専門家による講義や演習だったので、基本的な操作から効果的な機能の説明まで扱われ、充実した研修となった。			
	一応効果がある	②				
	効果がない	1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	A	機器の進歩により、家庭での撮影機器がカメラやビデオカメラからタブレットやスマートフォンに代わりつつあるので、こうした機器の活用について研修する機会が必要であると考えたが、操作が容易であり、様々な方法で機能を知る機会があるため、センターでの研修会を実施する必要はないと判断した。			情報機器は着実に発達し、ますます身近なものになる。参加対象者のニーズを分析し、参加者が見込める講座を検討していく。
	見直・改善(7~5点)	B				
	縮小・廃止(4~3点)	③				

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	1 研究と研修活動の充実	事業名	自作視聴覚教材コンクール事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2. 8. 31
------	--------------	-----	----------------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	管内幼児施設職員、小・中・高の教職員、社会教育関係団体、一般	内容	自作視聴覚教材コンクール 北村山管内の地域住民に広く公募し、地域学習教材のコンクールを実施する。 令和元年度 審査会(11月21日)表彰式(12月4日) ・児童生徒作品部門 5作品 ・社会教育部門 1作品	事業費	66千円			
	目的	変化の激しい時代をむかえ、以下の観点に沿った視聴覚教材を整備充実する必要がある。 ・児童生徒の生きる力を育成すること ・北村山地域の魅力に注目し教材として活用すること ・教材制作を通じて、自ら課題を設定し解決する主体的な学びを展開すること これらに応えるために、学校教育・社会教育の幅広い分野で、自作視聴覚教材の制作を積極的に奨励するとともに、その制作技術の向上に資するために開催する。				歳入(補助金等)	国	県	その他
					歳入(一般財源)	66千円			

2 事務事業評価(令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	表彰式において、最優秀賞の作品を鑑賞し、作品制作の工夫などについて研修する機会を設けた。	
	必要性	必要性高い	③	自作視聴覚教材制作はセンター・ライブラリー機能の面で重要な事業であり、北村山管内の各教育団体が主体的に教材制作を行えるよう、センターが支えていく役割を担う必要がある。	次年度への課題	自作視聴覚教材コンクールの出品者が固定化している。また、作品の内容のもう一歩の高まりを求めたい。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性	効率的である	3	センター主催のコンクールを毎年開催することにより、学校教育機関、社会教育団体ともに毎年のように出品する団体があるので、一定の効果があるといえる。	今後の取組方針	自作視聴覚教材のコンクールへの出品作品のレベルアップのために講習会などを開催し、作品の質の向上と応募作品の増加を促す。また、専門部会との連携をさらに密にし、より地域に密着した映像制作を行っていく。
		どちらかといえば効率的	②			
		効率的でない	1			
有効性	効果がある	3	学校教育において、情報機器の活用や表現力の育成が重要視されてきている。これらの能力を育成することを目的としてコンクールへの出品をする学校もあり、教育的効果の面でも効果がある事業といえる。			
	一応効果がある	②				
	効果がない	1				
総合評価	継続・拡大(9~8点)	A	自作視聴覚教材制作は、センター・ライブラリー機能の面で、センターが担うべき役割の1つである。また、教材制作活動が学校教育にも効果的に活用できるという点から、今後も事業を続けていくべきと考える。作品数が少ないので、今後は教育効果についてより詳しく説明するなどし、学校教育活動への活用を増やしていくべきである。			
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	見直・改善(7~5点)	③				
	縮小・廃止(4~3点)	C				

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

事務事業名	1 研究と研修活動の充実	事業名	職員の研修	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2. 8. 31
-------	--------------	-----	-------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	事業実施場所及び北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	センター職員	内容	新しく配属となった職員を中心に、下記研修会等に参加して研修を積む。 ・日本教育工学研究会全国大会(R1開催地:島根) ※参加 ・全国プラネタリウム大会(R1開催地:福岡) ※不参加 ・全国視聴覚教育総会・理事会(東京都) ※参加 ・教育ITソリューションEXPO(東京都) ※参加 外部講師を依頼しての職員研修 市販図書の購入	事業費	239千円			
	目的	外部団体の研修に参加することで、職員の見識を高める。研修での学びを管内での研修内容に反映させ、管内におけるICT活用の底上げを図る。			補助率	国	県	その他	
						0千円	0千円	0千円	
地方債名	241千円								

2 事務事業評価(令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	研修が参加した個人の物とならないよう、様々な機会を通し研修内容を伝達していく。	
		点数				
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	管内のICT教育の中核として、全国の先進的な研究や実践に関する研修を積むことができている。各種センター事業の折に、利用者に対して還元できる部分も多く、今後も積極的に全国規模の研修に参加をしていく必要がある。	次年度への課題	新型コロナウイルスの影響で、全国的な研修会に参加することが難しくなっている。研修の内容を学校現場にいかにつなげていくかに課題が残る。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	センター職員が先進的な実践の研修を積むことで、管内に広くその成果を広げることができているものの、その主たる方法が文書による伝達となっているため、体験を伴うような実践的な形に変えるなどしていく必要がある。	今後の取組方針	参加する研修会が何年も固定化しているところがあったが、開催地に縛られないオンラインでの研修に積極的に参加し、より幅広く研修を積んでいく。対面での伝達は難しい状況にあるが、オンラインなどを効果的に活用し文書での伝達に偏ることの無いよう工夫していく。より専門性を高めるため、外部講師を依頼しての職員研修会も企画していく。
		どちらかといえば効率的	②			
		効率的でない	1			
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	新しく視聴覚教育センターに就いた職員が研修を積むことで、職員の育成に繋がっている。		
		一応効果がある	2			
効果がない		1				
総合評価 上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	継続・拡大(9~8点)	④	全国の先進的な取り組みを素早くキャッチするため、今度も継続して参加をしていく。ただし、参加する研修会が固定化しているところがあるので、他の研修会情報も積極的に収集していく必要がある。			
	見直・改善(7~5点)	B				
	縮小・廃止(4~3点)	C				

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 一般公開の充実	事業名	天文関係事業 (天文講演会・プラネタリウムイベント)	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2. 8. 31
------	-----------	-----	-------------------------------	---------	--------------	-----	-----------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	一般	内容	スターウォッチングクラブ:小学生を対象に、参加者を募り、天文学習を行う。 星空散歩・プラ寝たリウム:一般の方々を対象に、趣向をこらしたプラネタリウムを用い行う。 天体観望会:一般の方々を対象に、季節の星座や惑星などの天体の観察を望遠鏡などを使って行う。 星と映画の夕べ:一般の方々を対象に、各市町教育委員会と協力し映画と天体観望を行う。 天文に関わる展示:はやぶさ2実物大模型展示イベントを開催する。	事業費	160千円			
	目的	幅広い年代を対象に天文への興味関心を持ってもらうことや、天文教育を行うもの			歳入(補助金等)	国	県	その他	
						0千円	0千円	0千円	
歳入(一般財源)	160千円								

2 事務事業評価 (令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など			前年度からの改善点	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	はやぶさ2実物大模型展示においては延べ600名の参加を得るなど天文への興味関心も強く必要性は高い。北村山において唯一プラネタリウムを所持する施設であり、プラネタリウム関連のイベントや観望会のイベントいずれも予約時に定員に達する盛況ぶり、必要性は高い。		前年度からの改善点	プラネタリウム等の事業については、プラ寝たリウム、新たな演者を招いての趣向を凝らしたプラネタリウム事業内容へ改善した。天文に関わる展示・講演等については、はやぶさ2模型展示を行うなど新たな取り組みを行った。また参加者申し込みの方法にインターネット申込手法を取り入れた。
		一応必要性ある	2				
		必要性低い	1				
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	③	インターネットを経由した申込手法を取り入れたことにより、電話対応が少なくなり、少ない労力で多くの参加者を取り込むことができ効率的となった。		次年度への課題	より天文に興味を持ってもらえるよう、対象年代に対応した内容にしていく。一般の方を対象とした天文学習としては、はやぶさ2帰還に合わせ継続し天文講演会を実施する。
		どちらかといえば効率的	2				
		効率的でない	1				
	有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	スターウォッチングクラブは毎年定員満員の参加がある。星空散歩、天体観望、星と映画の夕べについては、来場者は増加傾向である。天体への興味関心が深まっている。		今後の取組方針	センター所属のボランティア団体(北村山天文愛好会)と連携を強化し、管内住民により天文に興味を持ってもらえるような企画を計画していく。
		一応効果がある	2				
		効果がない	1				
総合評価	継続・拡大(9~8点)	A	今後、申込方法の工夫(令和元年度実施インターネット申し込み)、ダイレクトメール広報も進めることで、利用拡大を図る。事業内容の面でも、天体関連の講演会を行い利用拡大を図る。		今後の取組方針	センター所属のボランティア団体(北村山天文愛好会)と連携を強化し、管内住民により天文に興味を持ってもらえるような企画を計画していく。	
見直・改善(7~5点)	B						
縮小・廃止(4~3点)	C						
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。							

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 一般公開の充実	事業名	センターまつり及び土曜一般公開事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	-----------	-----	-------------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	一般、管内幼児施設職員、小・中・高教職員、社会教育関係団体	内容	【センターまつり】 ・プラネタリウム投影(ボランティアサークル制作番組、オカリナ生演奏との共演) ・子ども映画劇場 ・科学マジックショー(外部講師) ・プログラミング体験 ・ブラレールコーナー ・トイドローンの飛行体験 ・村山産業高校電子情報科による3Dプリンタ実演コーナー 【土曜一般公開】 ・子ども映画上映とプラネタリウム投影(午前・午後1回ずつ) ・機器材・教材の貸出や、教材制作等での施設利用	事業費	150千円					
	目的	プラネタリウム室や視聴覚室などの設備と、貸出機材・教材について多くの方に知ってもらい、観望会等のイベントだけでなく、土曜日の利用者や、貸出、学習室の利用者など、年間合計の利用者の増加を図る。				歳入(補助金等)	国	県	その他		
		0千円	0千円	0千円	歳入(一般財源)		164千円				

2 事務事業評価(令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	改善点	
	必要性 広域行政が行なうべきか。地域のニーズを反映しているか。	必要性高い	③	幼児、児童が保護者と一緒に来所し、楽しんでいる様子が多く見られた。センターまつりで開催する科学マジックショーや科学実験は科学への興味を高めるイベントとなった。高校生が地域の子供達にクラフトやICT機器の説明をするコーナーでは、お互いに良い刺激を受けていた。このような形で施設を利用する機会を今後も確保するべきと考える。	【センターまつり】 プラネタリウムで音楽の生演奏との共演を行った。科学に対する興味を高めるため、科学実験コーナーを設けた。トイドローンの飛行体験コーナーを設けた。村山産業高校へ協力を依頼し、生徒が3Dプリンタの実演などを行った。
		一応必要性ある	2		
		必要性低い	1		
	効率性 投入された資源量に見合った効果が得られたか。	効率的である	3	センターまつりについて、準備にかかる時間や労力と利用者数を考慮すると、開催内容の検討が必要である。休日の振替を行わなければならないという課題がある。土曜日開館についても休日の振替の課題がある。	次年度への課題 映画とプラネタリウムの内容について、視聴者が求める内容にできるよう検討する。(映画の作品をレンタルすることも含めて検討する。) センターまつりのプログラミング体験はより学校教育と関連付けていく。また、クラフトコーナーの準備に時間がかかるので、内容の検討を行う。
		どちらかといえば効率的	②		
効率的でない		1			
有効性 目的に対して事業が有効か。事業実施により期待される効果が得られたか。	効果がある	③	幼児、児童の付き添いとして来所する保護者の方が、施設の機能を知ること、会議での利用や貸出などの利用につながるのではないかと考える。また、幼児施設と小学校で年間1回以上行っている移動学習と希望する団体に行っているプログラミング教育の内容を保護者の方に知っていただくことも重要であり、有効性は高い。	今後の取組方針 今後も幼児や児童を対象としたコーナーを維持しつつ、大人も楽しめる映画やプラネタリウムも考えていきたい。また、センターとしての魅力を伝えられるようなコーナーに力を入れていきたい。そのために機材の購入や内容の検討を早めに行う。また、管内の高校に協力を依頼し、プログラミング教育に関する学習内容の発表や体験をセンターまつりで行うことで、小学校の学習が高校のどんな学習につながるかを体験させる。	
	一応効果がある	2			
	効果がない	1			
総合評価	継続・拡大(9~8点)	①	地域住民にセンター機能を体験させる機会を設け、利用者数につなげるためには必要な事業である。内容を吟味し、今後も利用者のニーズに対応して実施すべきである。		
	見直・改善(7~5点)	B			
	縮小・廃止(4~3点)	C			

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	2 一般公開の充実	事業名	センター利用を促進するための広報活動	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	-----------	-----	--------------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	管内幼児施設、小・中・高校、社会教育関係団体、一般	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシの配布先は幼児施設、小中学校、図書館、地域市民センター、公民館だけでなく、道の駅、観光物産協会など観光客が集まる場所にも配布する。 ・リピーター獲得のため、イベント参加者にはアンケート記入をお願いし、DM希望者の住所・メールアドレスを収集する。 ・DM希望者にはイベント案内のメール・はがきを送り、参加者の増加を図る。 ・予約をインターネット上で受け付けることとし、時間を気にせず予約できるようなシステムにする。 ・チラシにQRコードをつけ、HPにリンクをはることで、イベント紹介ページを簡単に見られるようにする。 	事業費	404千円					
	目的	地域住民の多くの方にセンター事業を知ってもらい、全ての事業の予約が定員に達するようにする。特にリピーターの獲得を増やす。				【チラシ】 ・土曜開館(5月、9月、12月) ・センターまつり(7月、12月) ・観望会(4月、6月、7月、8月、2月) ・はやぶさ2実物大模型展示イベント(9月) ・熟睡プラザたりウム(11月) ・リニューアルイベント(3月)	歳入(補助金等)	国	県	その他	
				歳入(一般財源)	408千円						

2 事務事業評価 (令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布箇所を拡大した。 ・DMを送り、リピーターの増加を図った。 ・イベント予約をインターネット上で受け付けた。 ・チラシにQRコードを貼付し、HPでイベントの内容の確認と申し込みをできるようにした。
	必要性	必要性高い ③ 一応必要性ある 2 必要性低い 1	チラシを配布する範囲を広げ、DMでの広報を行うことで、定員に達するイベントが増えた。情報を得ることでイベントに興味を持ち、参加したいと考える地域住民は多いと考えられ、広報の必要性は高い。		
	効率性	効率的である ③ どちらかといえば効率的 2 効率的でない 1	チラシにQRコードをのせ、インターネットで申し込み形をとったことで、予約システムが確立された。	次年度への課題	チラシの配布先の整理とチラシの準備・配布の仕方。リピーター獲得のためのチラシ送付とメールでの広報の仕方。
	有効性	効果がある ③ 一応効果がある 2 効果がない 1	教育施設に全員分のチラシを配布するイベントの参加者は良好であることから、チラシ配布には一定の効果がある。児童生徒だけでなく、地域の一般の方々への広報についてさらに工夫していく必要がある。	今後の取組方針	<p>チラシ準備と配布について、業務分担を行い、配布時期を逃さないようにする。大きなイベントについては、実施要項を3か月前に完成させ、計画的にチラシを配布できるようにする。同時にプレスリリースも確実に実行。</p> <p>事業後のアンケートで住所またはメールアドレスを記入していただき、DMでの広報を行う。R3年度より順次メール一斉送信システムでの広報に移行していく。</p>
	総合評価	継続・拡大(9~8点) ① 見直・改善(7~5点) ② 縮小・廃止(4~3点) ③	チラシでの広報だけでなく、SNSの活用も合わせて効果的に行う必要がある。リピーターの獲得について、チラシの送付とメールでの広報の仕方を開拓したい。		
		上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。			

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 地域素材、機器材・教材の充実	事業名	映像教材の制作・アーカイブ化事業	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	------------------	-----	------------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度		終了年度	
	対象	一般	内容	北村山地域の伝統文化、伝承行事等を映像作品として保存、伝承する事業。教材に適した映像素材であるかどうかを判断し、計画的に撮影および編集等を行う。撮影にはH30に購入したドローンを活用する。作品を収める媒体は、DVDおよびインターネット上の動画投稿サイト(YouTube)とする。 北村山視聴覚教育センターYouTubeチャンネル 公開動画:4本(R1.3.31現在)	事業費	777千円			
	目的	古くから受け継がれてきた行事や伝統芸能などを映像として保存し、永く後世に伝えていく。				歳入(補助金等)	国	県	その他
				0千円	0千円		0千円		
				歳入(一般財源)	777千円				

2 事務事業評価(令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	インターネット上の動画投稿サイト(YouTube)を活用し、所蔵する自作教材の保存・公開事業を開始した。	
	必要性	必要性高い	③			伝統神楽の映像制作依頼もありニーズに応え制作を行った。また、インターネット上の動画投稿サイト(YouTube)への公開の同意を得ることができる作品もあり、事業の必要性は高い。
		一応必要性ある	2			
		必要性低い	1			
	効率性	効率的である	③	デジタル媒体をインターネット上に動画投稿する効率性は、DVDパッケージを製作する労力より効率的である。制作物も品質をそのままに保存できることから動画投稿サイトの利用は有用である。今後は、より質出し件数や閲覧件数の増加が見られればさらに効率性が増す。	次年度への課題	利用者ニーズに即した作品づくり、また教材の適切な長さや、視聴者を引き付ける映像づくり(編集)が課題である。また、教材利用者拡大、同時に撮影業務に対する人的体制の改善が課題である。
		どちらかといえば効率的	2			
		効率的でない	1			
有効性	効果がある	③	インターネット上の動画投稿サイト(YouTube)は、全世界に対象が広がり、自作視聴覚教材アーカイブの視聴件数に与える効果はとて大きい。	今後の取組方針	インターネット上の動画投稿サイト(YouTube)への公開作品の充実を図る。教材制作にあたり、題材については吟味を行ったうえでボランティアサークルビデオクラブと連携しつつ制作にあたり、視聴者を引き付ける映像づくり(編集)を行う。	
	一応効果がある	2				
	効果がない	1				
総合評価	継続・拡大(9~8点)	Ⓐ	今後、インターネットを活用したアーカイブ化も進めることで、利用者拡大を図る。			
上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。	見直・改善(7~5点)	B				
	縮小・廃止(4~3点)	C				

令和元年度 北村山広域行政事務組合教育委員会 事務事業点検・評価書

基本方針	3 地域素材、機器材・教材の充実	事業名	機器材・教材購入及び貸出	所管課等・係名	北村山視聴覚教育センター	作成日	R2.8.31
------	------------------	-----	--------------	---------	--------------	-----	---------

1 事業内容	事業実施主体	北村山視聴覚教育センター	事業箇所	北村山視聴覚教育センター	事業年度	開始年度			終了年度		
	対象	機材は、学校教育関係機関、社会教育関係団体、その他教育長が認めた団体。 教材は、上記団体に加え、管内に住所を有する個人。	内容	【研修用機材】 ・教材作成用コンピュータ 1台 (リース) ・講習用コンピュータ 5台 (リース) ・教材作成用ビデオカメラ 3台 (リース) ・タブレットPC 40台 (リース) ・撮影用ドローン 1台 (購入)	【貸出状況】 ・16ミリ映画 161本 ・ビデオ・DVD 2,629本 ・機器材 2,673件	事業費			2,650千円		
	目的	小中学校、社会教育団体等で利用する視聴覚機器材、教材を整備し、学校、団体等に提供する。 16ミリ映画、DVD等の教材や、映写機、カメラ等の機器材の購入と貸し出しを行う。		【貸出用教材】 ・アニメーション 7セット20本 ・交通安全 4セット 4本 ・防災 3セット 3本 ・教科教材 12セット19本	歳入 (補助金等)			国	県	その他	0千円
						歳入 (一般財源)			4,921千円		

2 事務事業評価 (令和元年度事業)	評価項目	評価結果	理由・問題点など	前年度からの改善点	学校教育の教材は、生徒指導や特別支援教育のDVDを購入した。授業用から研修用へ方針転換した。社会教育の教材は、地域住民の貸出のニーズに合う教材を中心に購入した。
	必要性	必要性高い ③ 一応必要性ある 2 必要性低い 1	全体的には減少傾向にあるが、幼児施設や官公庁の事業での貸出が多く、センターの機材が必要とされていた。 北村山地区内に同様の施設はなく、センターが担う役割は大きいと考える。		
	効率性	効率的である 3 どちらかといえば効率的 ② 効率的でない 1	プロジェクターやスクリーンについての貸出は多く、購入の効果があつた。 新規購入DVDの貸出は比較的多く、利用者のニーズに応じていた。	次年度への課題	故障している機材の廃棄と新機種の機材の導入。 統計の分析。 学校教育関係者のニーズを踏まえた学習室の機材整備。 貸出コーナー、アーカイブ上映コーナー設置。 購入とリース契約の選択。
	有効性	効果がある 3 一応効果がある ② 効果がない 1	複数の機材が購入から年月が経ち、性能の面で最新機種から見劣りするようになってきた。高性能の機材の調査を行い、利用者が満足するような機器材を定期的に導入し、「最先端の視聴覚機材の提供」というセンターの役割を果たすべき。	今後の取組方針	貸出統計を吟味し、貸出の多い機材に重点をおいて整備を進める。 管理の面と性能の面を考慮し、リース契約にすべき機材は購入から切り替える。 最先端の視聴覚教材を活用した教育が体験できるよう機材・教材をそろえる。電子黒板を用いて情報共有を容易に行うICT機器を体験または授業を行えるよう整備する。 学校教育に対する整備については、教材購入を縮小させ、機器購入を増やしていく。
	総合評価	継続・拡大(9~8点) A 見直・改善(7~5点) B 縮小・廃止(4~3点) C	プロジェクターや音響機器の貸出利用者が多く、センターの機材が必要とされている。 一方で、技術の進歩により安価で性能の良い機器がたくさん出てきている。より良い機器の提供を考えていく必要がある。 教材購入については、移動学習や家庭用貸出など利用者のニーズを分析し、求められている教材をそろえていく必要がある。		
		上記(必要性+効率性+有効性)の合計点数により評価。			

